

令和5年度第1回佐賀県廃棄物処理施設専門委員会 意見要旨

日 時：令和5年10月5日（木）10:30～12:00

場 所：ホテルマリターレ創世 4階 ミュース

出席者：専門委員：（会場）島岡委員長、市場委員、高島委員、三島委員  
（オンライン）太田委員、田中委員

事務局：循環型社会推進課 山口課長、山口副課長、龍尾係長、江良技師、他2名

傍聴者数：9名

報道機関：サガテレビ、佐賀新聞社

【意見要旨】

- 底部集排水管よりも低い位置に、廃棄物が埋立てられているのであれば、この集排水管よりも下にある廃棄物の浸透水は集水できていないのではないかと。
- 地下水の採取孔の柱状図（ボーリングデータ）を見せてほしい。また、どのあたりに有孔管が入っているのか。
- 上流側の底部集排水管の近くに採取孔があってもいいのに、場所が少しずれている。その場所を選んだ理由はなにか。
- 浸透水のCODが低下したのは何か対策をとって低下したのか。
- 浸透水のCODが上がった原因物質は特定されたのか。
- 今、廃棄物を入れていないから浸透水のCODが低下しているが、今後、廃棄物を入れるとまたCODが上がるのではないかと。
- 処分場が取消しに至った原因を明らかにし、原因を解決し、それを満たした申請書じゃないとまた同じことを繰り返すのではないかと。
- 許可を取り消された処分場は、管理が必要な処分場であり、見方を変えれば管理型の処分場なので、CODが基準を下回ったのではなく、管理型処分場の廃止と同じ基準を満たすまで、管理を引き続き続けさせるべきではないかと。
- 現地視察した際に、浸透水はまだ30℃くらいと説明を受けた。廃止基準を満たしていないのではないかと。
- 本来であれば、処分場を廃止に向けて管理を続け、高濃度のCOD、黒い色の水の原因を究明し、そのようなことが二度と起きない対策を含めた上で申請すべきであり、申請自体が時期尚早である。

- 展開検査だけでは不十分であり、排出事業者から化学的なデータを入力し受入れ可能か判断した上で受入れし、浸透水で水質を確認する。一番底に集排水管があるので、新しく入れた廃棄物の影響なのか、前の廃棄物の影響なのかわからなくなるため、浸透水を採取する新しいところをとれるような工夫をしないといけない。
- 以前、黒い水がでたという話があったが、硫化水素が含まれていたと思われる。今埋立てている廃棄物の中に硫黄分があれば、今後黒い水が出てくる可能性が十分ある。
- 申請書に埋立手順は示されていたのか。また、調整池の容量は示されていたのか。円弧滑り計算は大きな法面の二つのうち、もう片方の横断面についても安定計算がされているのか。
- 生活環境影響調査の水質の下流の予測結果のCODは6.0mg/Lではなく、7.8mg/Lではないか。
- 騒音で一番近い民家で予測されているが、処分場との間に森林があり、減衰しているのだと思われる。ここを埋めていくと森林が減っていき、騒音が大きくなるのではないか。今後森林を伐採することはあるのか。
- この地質を見ると風化してもろい地盤のように思う。この場所も土砂災害危険地区に指定されており、何か対策をしているのか。
- 受け入れる安定型廃棄物5品目の割合により、円弧滑り計算で使用している埋立後の単位体積重量が変わってくるので、安定型廃棄物5品目の割合を明らかにすべき。